

成果の説明書

(氏名)笠見 弥生	(学部)経済学部
1 重要事項	
【研究】 昨年度に引き続き明末の文人凌濛初による短篇白話小説集『拍案驚奇』及び『二刻拍案驚奇』を対象とし、科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948)の助成を受けて研究を進めた。主な進捗は以下の通りである。 (1) 凌濛初及び「二拍」に関する自身の既刊論文を見直し加筆修正を行った。 (2) 凌濛初及び「二拍」に関する先行研究や関連資料の調査を国立国会図書館、東京大学東洋文化研究所図書室、愛知大学図書館等で行った。また中華經典古籍庫等のデータベースも活用した。 (3) 凌濛初が「二拍」編纂時に用いたと思われる書籍の一つ、『元曲選』について「二拍」との関係性を再検討し、「凌濛初「二拍」と『元曲選』というタイトルで論文にまとめた。同論文は『中国俗文学研究』第26号(2023年3月刊行)に掲載された。 (4) 「二拍」作品の中で先行研究において取材源が複数指摘されている作品の一つ、『二刻拍案驚奇』卷三十「瘞遺骸王玉英配夫 償聘金韓秀才贖子(遺骸を瘞めて王玉英夫に配し 聘金を償いて韓秀才子を贖う)」について、凌濛初が何に基づいてこの作品を編んだのかを再検討し、「凌濛初「二拍」に基づいた書籍—『二刻拍案驚奇』卷三十の取材源について—」と題して投稿した。	
【教育】 「中国語Ⅰ～Ⅲ」「中国語文献講読Ⅰ」「中国語文献講読Ⅱ」「日本語リテラシーⅠ」「中国古典研究」「中国文化論」を担当した。特に以下の点に留意して行った。 (1) 中国語科目は今年度より教科書を変更し、新たにⅢを担当するようになったため、来年度以降を見据えて授業の構成を検討した。 (2) 中国語Ⅰ～Ⅲについては、途中でついてこれられなくなる受講者を少しでも減らすことを意識し、小テストの内容等で対策を講じた。 (3) 中国古典研究については、受講者の理解度を深めるため、扱う作品を減らした。古い刊本の画像を配布し、書画カメラを活用して、辞書を引きながら内容をゆっくり理解していく作業を間接的に体験できるよう工夫した。 (4) 中国文化論については昨年度まで『論語』等の思想文献や李白・杜甫等の典型的な古典作品を扱っていたが、今年度は大幅に内容を変更し、『三国志演義』や『水滸伝』等より庶民的な作品を中心に扱った。アニメやドラマ、京劇等様々な媒体を通じて作品を紹介し、中国語圏の文化に親しんでもらえるよう心がけた。	
2 その他の事項 2020年4月～ 日本中国学会広報委員会幹事	
3 次年度以降の計画・抱負	
【研究】 科研費「短篇白話小説『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』の編纂過程についての研究」(JSPS20K12948)について、再度一年間の延長が認められた。昨年度に引き続き、『拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』に基づいた書籍との関係を個別に詳しく検討するとともに	

に、凌濛初の交友関係や家系、小説以外の出版物にも目を向け、「二拍」の形成過程をより深く検討していきたい。

【教育】

非常勤講師の先生方を含め、同一シラバスを複数の教員が担う中国語Ⅰ～Ⅴについて2022年度より一部教科書の変更を行い、2023年度で全科目の教科書が変更となる。スムーズに段階的受講ができるよう、よりよい指導方法を模索していく。

中国文化論・中国古典研究についても、2022年度に授業内容を大きく変更した。その効果を見極めつつ、受講者の好奇心を刺激する授業構成に努めたい。